

取材案内
(経済同時)

令和4年8月30日
京都市環境政策局
〔担当：地球温暖化対策室〕
電話：075-222-4555

使用済衣服の回収&循環プロジェクト リリース・キャッチ 「RELEASE⇔CATCH」に係る共同記者会見について

京都市では、「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～」のもと、一人ひとりの生活の中での選択が脱炭素につながるようなプロジェクトの創出を支援しています。

この度、本プロジェクトの一環として、リデュース、リユース、リサイクルの若者文化を醸成することを目指す、使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」を開始するに当たり、下記のとおり参画する各団体の代表等による共同記者会見を開催しますので、お知らせします。

また、サステナブル・ファッションを推進する企業連携プラットフォームである「ジャパンサステナブルファッションアライアンス（以下「JSFA」という。）」に京都市がパブリックパートナーとして加盟することについても、併せてお知らせいたします。

記

1 日時

令和4年9月5日（月）午後1時～午後1時30分

2 場所

QUESTION 4階 コミュニティステップス（河原町御池東南角）

3 出席者

京都市長 門川 大作
株式会社ヒューマンフォーラム 代表取締役社長 岩崎 仁志
京都信用金庫 理事長 榊田 隆之
安田産業株式会社 取締役 安田 義崇
株式会社ジェイ・エス・ビー ファシリティ事業本部 取締役 本部長 山本 貴紀
株式会社たまゆら 専務取締役 管理本部 本部長 田中 健一

4 次第

- (1) 出席者紹介
- (2) 挨拶（全出席者）
- (3) 質疑応答
- (4) 写真撮影

5 「RELEASE⇄CATCH」について

(1) 概要

株式会社ヒューマンフォーラムが中心となり、京都市内を中心に、御家庭で不要になった衣服を回収する回収BOXを設置し、回収した衣服のうち再利用可能な衣服を販売することで、市内で循環させるプラットフォームを創出します。今後回収BOXの設置箇所を増やし、今年度中に約100箇所の設置を目指します。(別紙参照)



<プロジェクト・ロゴマーク>

衣服をTシャツで表現し、プロジェクトのイニシャルであるR (RELEASE) とC (CATCH) を融合させ、RELEASEとCATCHを繰り返すことで循環の連鎖が生じることを表現しています。

(2) 参画団体

主催：株式会社ヒューマンフォーラム、京都信用金庫

共催：京都市、安田産業株式会社、株式会社ジェイ・エス・ビー

パートナー：株式会社たまゆら

6 京都市の「JSFA」への加盟について

京都市は、JSFAが目指すサステナブルなファッション産業への移行を推進する取組に賛同し、自治体として初めてパブリックパートナーとして加盟します。

【参考】 JSFAの概要について

ファッション産業が自然環境及び社会に与える影響を把握し、ファッション及び繊維業界の共通課題について共同で解決策を導き出す企業連携プラットフォーム。「ファッションロスゼロ」と「2050年カーボンニュートラル」を目標に、サステナブルなファッション産業への移行を推進することを目的とする。令和3年8月3日設立。正会員企業21社、賛助会員企業29社(令和4年8月時点)。

7 取材に当たって

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会場内ではマスクの着用、こまめな消毒の実施などの感染症対策に御協力いただくほか、必要最低限の人数での取材に御協力をお願いいたします。

問合せ先：京都市環境政策局地球温暖化対策室(075-222-4555)

【参考】

『京都脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～』のプロジェクトについて

京創ミーティングは、将来の京都を担う若者を中心とする市民、事業者及び学識者等の皆様と共に、2050年の京都にふさわしい脱炭素型のライフスタイル像や、それを実現するためのこの10年の目標・アクションを創るため、令和3年9月に発足しました。京創ミーティングのもと、専門的な知識を持つ又は先進的な取組を行うメンバーによりワーキンググループを構成し、市民の行動変容の促進に向けた選択肢を社会に生み出すことを目指したプロジェクトを検討しています。

RELEASE CATCH

プロジェクト概要

不要になった衣服を回収BOXへ

市民の皆様



プロジェクト
創出・実証支援
京都市
CITY OF KYOTO
京都市

(別紙)

回収BOX設置



回収BOX



⇒今後の展開
プロジェクト参画企業を募り、
回収BOX設置箇所を今年度約
100箇所拡大する。

運搬



仕分け



リユース



リサイクル



新しい所有者が活用

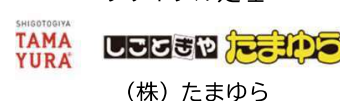


販売、イベント（循環フェス）等での
無料提供、支援団体等への寄付



製品化し、販売等

リサイクル処理



目的

御家庭で不要になった使用済衣服を
回収し、再活用の輪を広げ、可能な限り
地域内でリユースするプラットフォーム
を創出することで、リデュース、リユース、
リサイクル、が若者カルチャーとして
醸成することを目指す。

【主催】
株式会社ヒューマンフォーラム
京都信用金庫
【共催】
京都市
安田産業株式会社
株式会社ジェイ・エス・ビー
【パートナー】
株式会社たまゆら